



大学版画研究会発足以来、熱心に研究を重ねたカリキュラム委員会が、3年前「大学版画研究カリキュラム私案」を発表した。それと前後して、女子美術大学に版画科が設置され、私案は私案のまま終ることなく、実践と反省を繰り返し、より現実的なものとなった。一つの美術大学が一つの科を設置しそれを他の多くの大学の専任教員によって、集団討議されつつ実践が深められた例は、日本の美術大学始まって以来の試みであろう。来春第一期生として女子美術大学版画科を卒業する学生に大学共々私達も大いなる感慨を持っている。

### ●カリキュラム考

美術大学でカリキュラムと言う耳なれない言葉が大きく浮び上って来たのは、70年学園紛争を境にしてからである。日本に美術学校が創設される折りは多くの美術家その他によって、その意義や目的、内容に就いて議論されたことであろう。すでに明治2年文部省からヨーロッパに美術教育取り入れ調査に派遣された報告書には「西洋美術に純粹美術と応用美術有り」と言う報告があり、彫刻はその時点では応用美術の分類に入れられていたと言う。考えて見ると日本の彫刻家達は仏師として仏像を彫る職人であり、ひらたく言えば左甚五郎と言った人達である。東京美術学校教授、皇室技芸員となる、加納夏雄も小柄などに絵を彫る職人のあつかいであった。数年後彫刻は純粹美術に入ることになるが、それからの10数年は今日の美術学校の形態が出来上がる試行錯誤の時代であり、美術史に残る多くの人材が出たのもその時期ではあるまいか。

美術学校が専門学校として、私塾の形態のまま大学となり、70年代と言う多様化の時代を迎えた時、当然のごとく学園紛争と言う形で、美術大学そのものが討れることになる。「描写力をつければ画家になりうるのか」、「画

家とは何か」「美術大学とは何か」総て、明治の創設の時点のごとく80年代と言う明日を見つめながらやりなおさねばならない。単にカリキュラムと言うメニューを配膳するのでは無く、10年、20年後彼等が創造しうる能力を充分に開発し得なければならない、「美術は教えることは出来ない」と言う言葉は70年頃良く言われた言葉である。今もなおその言葉をくり返し噛みしめている教師が何人いるであろうか。教えることが出来ないとすれば、その部分はどこであり、教える部分はどこか。教えるのでは無く学生自身が触発する媒体は何か、我々は芸術家の勤と化学者の論理を持って鋭くそれを抽出し、より良いカリキュラムを組み立てなければならない。創造の無い芸術があり得ないように、目的と課程の無い教育はあり得ないからである。

版画の具体的なカリキュラム案はカリキュラム委員会の報告、座談会に待つとして、一つ気になることは、版画が技術的にあつかわれる面である。版画にはプロセスがあり、技術的な制約を伴うが、創造的な部分もそれ以上に大きいと言うことである。その二つの面を内蔵しているが故に今日的重要性を持って版画が大きく浮び上って来たので二つの要素を分離、統合しながら美術教育の中で活用して行かねばならない。当然カリキュラムの中でもそれをどのように生かして行くかが重要なテーマである。それは70年紛争の荒々しい暴力的な改革ではなく、より本質的な部分で美術大学の明日を提示するものとなるカリキュラムと言うより具体的な内容で大学版画研究会が学校のセクトを越えて討議・思考し、各大学の独自性を失うこと無く行なわれることによって80年代の美術大学は70年学園紛争以上の本質的な改革を提示されることになるであろう。

「版画教育を考える」

出席者・吹田文明、田村文雄、原 健、馬場禱男(発言順)、中村忠良(司会)

**中林** きょうはぼくが司会をさせていただきます。いままでカリキュラム分科会でアンケートをとったり、各大学の実情を調査して、どういうカリキュラムで大学の版画教育をしたらいいかということを検討してきたんですが、話し合ってみますと非常に膨大な問題を含んでいて、これはカリキュラムの内容だけでなく、大学教育の中で版画がどういうふう位置づけられなければならないかということまで話をしなければ問題は解決しないという状態があるわけです。

大きく分けて問題点は二つあると思いますが、一つは、大学の造形教育の中で版画がどういう位置を占めたらいいのか、版画の教育というものは大学教育の中でどういう役割りを担っていて、しかもその役割りを果たすにはどういう形をとったらいいか、そういう位置づけ。二つ目は、そういうところでの版画の教育は実際にどういう内容をもって当たたらいいかというカリキュラムの内容自体の問題。この2点にしぼってお話を伺えたらと思います。

いままで出てきた話の中では、版画をコースという形でやるのと、科として1年生から入学試験をして4年までの一貫した教育をすべきだ、そういう形態を大学教育の中で持つ方がいい、そういう二つの点がクローズアップされていると思うんですが、吹田先生から問題提起というか、皮切りにお話しいただきたいと思います。

**吹田** 美術大学というものは従来の形態であって、その中で版画を考えるという前提ですね。そういうことでないと、ぼやけてしまうと思うんですが。

**中林** やっぱり理想論だけではだめだ思うんです。われわれはあくまでも現場の教師ですから。

**吹田** 例の大学紛争の時点では、新しい美術大学というのはどういう形をとらなきゃいけないかということをもみんな模索したわけです。ところがそれはいますっ飛ばしちゃって、もとの状態、つまり明治以来の美術大学の形態の中に返っちゃっている。その中で版画という部分が増殖されてきたわけですが、明治以来の美術大学の形態の中で、版画というものをどういう場所に位置づけるかというような非常に狭い形—美術大学の理想論じゃなく、増殖しちゃう

昭和54年7月3日、東京芸術大学小会議室に於て  
った版画というものをどう処理するかという形になっていて、いわば理想論のない形なんです。その中でわれわれがカリキュラムをどう組みかえていくかということに直面しているわけですね。

そういうことになってきますと、従来の絵画、彫刻、日本画といった筋の中に版画を一つつけ加えて1年からやるという考え方と、それから版画というメディア、方法論は、日本画だって洋画だって応用できるんだし、彫刻家で版画をやっている人間は外国にはたくさんいるわけだから、版画という一つの場所をつくって、デザイン科も日本画も、油絵も彫刻も、そんなそこへ来て版画をやりたければやる、そういう二つの方法しかないということでしょう。

**中林** 女子美は日本で最初に版画科という組織づくりをして、学生を1年の入学試験から採って、今度4年生を送り出す形になったんですけれども、いま吹田先生からいわれた一つの方向は、現在定着している美術大学のいろんな教育の形態の中で、版画の部分の一つにまとめて一貫した教育をするということですが、これが現に女子美でなされているわけですね。女子美の実情を田村先生から話していただきたいと思います。

**田村** カリキュラム委員会で組んでいった試案を現場でやってみて、いろいろ考えたわけなんです。

**吹田** 女子美がカリキュラム委員会の討議のもとに具体的に進んでいったただ一つの例ですね。ある意味では非常に実験的な試みをやったということですね。

**田村** 何年か前にカリキュラム試案をつくってやってみて、現在見直してみると、いろいろ長所もあるけれども、内容的にかなり欠点もある。女子美の場合は学校の事情もあって、全くそのとおりのやり方じゃなくても、一応試案に沿って4年間やってみたわけなんです。

カリキュラム試案を見るとわかるんですけども、1、2年が基礎過程、3、4年が版画の専門過程という形で、1、2年は版画オンリーでなく、絵画の従来やってきた実習、その中で一応版画科であるから基礎的な版画の実習も加えて、3年になって版画だけの専攻という形になっているわけですね。その成果は、



卒業生が出るのが来年の3月ですから、まだわからないけれども、実際に学校で見ると、学生が版画についていくとき、非常に戸惑ってるようなところがあるんですね。

というのは、普通のデッサンとか油絵を1、2年でやってきて、版画の実習もあるんだから、それは初歩的なことだけれども、一応なれているわけです。そして3年になって、いままで物を見て描くという形できたものが、急に版画の、物を見ないで絵をつくるということにぶつかって、その切りかえがうまくいかないんですね。

**吹田** 従来のデッサンをやらせ、人体を描かせ、静物を描かすという行為は、結局描写力の行為なんです。ところが版画にかわったときに描写力が即生きるというのは、リトグラフなんです。それがエッチングになるとちょっと違って来る。木版になると全く違っちゃう。そこで戸惑うわけですね。

**田村** いま版画科というのが最初のころよりも各大学で考え直されてきていると思うんですが、女子美でいまの時点で考えられるのは、もっと徹底してやった方がいいということなんです。たとえば素描なんかでももっと版を使ってやるとかですね。紙とかキャンパスでやっている、1、2年生のころはまだどういう絵を自分で描いたらいいかはっきりしてない時期ですから、かなり版画は版画、従来の素描は素描というふうに区別しちゃうんですね。こっちは内容的にも関連づけて考えたつもりなんです、素描と版画というものが全くつながってこない。もっと版画をつくるということに固執して徹底した方が特色が出るんじゃないかと思うんです。

**吹田** 女子美が版画科をつくる時点で多摩美も版画科をつくれるような情勢があったわけです。それが足踏みしちゃったというのは、考えてみると、美



術大学の教育システムそのものを変えなければ、版画だけはれ物みたいにくっつけてみても全然意味がないということ。それが版画科をつくれといわれながら踏み切れなかった点ですね。

**中林** 版画教育の中でいつも出てくることは、版画家としての専門家を養成するという行き方、それと同時に、じゃあ版画家というものは版だけいじっていいのかということ、決してそうじゃない。実際学生たちに教えていると、版にする前の造形能力とか、何を内容としどう表現にとり組むかという基礎的な教育が非常に大切だと思うんです。

そこでこの二つを組み合わせると版画科にするという考え方は、いろんな問題を多く持ち過ぎて、なかなかスムーズに大学の機構の中にはまらない。たとえば予算の問題とか、教官の人員の問題とか出てくる。それだったら版画コースとして、3年生、4年生の2年間に専門教育としての版画をやらせればいいんじゃないか。1、2年では油絵科とか造形科といったところで広く造形の基本を学んでもらいたいという考え方も一つ出てくるわけです。芸大がその例ですが。

この間カリキュラム委員会で、造形大学では非常に新しい開かれた形で基礎教育課程の中で版画的な思考方法を訓練するようなカリキュラムを持ってきているという話があって、非常に参考になったわけです。造形大学で現在版を使う以前の版画的な思考方法を訓練するようなカリキュラムを、原先生から紹介していただければいいんですが。

**原** 造形大学も3年で版画コースという形でいくわけですが、その前の1、2年のカリキュラムの中では、他大学と同じような版画の集中講義というものはもちろんあります。それとは別に絵画科のカリキュラムの中で、ただ筆でキャンパスの上に絵の具を

のせて作品をつくるということから離れて制作するというカリキュラムがあるわけです。

具体的にいうと、たとえばコラージュという技法を使ってコラージュさせたものを、次にタブローとして作品化させる。コラージュペイントといってますけれども、もう一つは、これは直接版画ということには関係ないけれども、メタモルフォーズという絵画上の表現領域をテーマにして、一種の描写から離れた段階で作品をつくらせるという試みをしているわけです。そういう変容空間もカリキュラムの中にあります。また、シルクスクリーンを用いて、実際のシルクスクリーンの技法を学ばせるんですけれども、同時に、キャンパスの上にシルクスクリーンで絵の具を定着させるといった動きが現代美術の中になんか見られますので、その辺の理解の一助にもなればということで、シルクスクリーンの技法によってキャンパスに絵の具を定着させるという試みをしているわけです。それから、どういう言葉が適当なのか、私は「版形式」という言葉を使っているんですけれども、プレス機を通さなくて絵の具をキャンパスの上に定着させる方法として、フロッタージュとかデカルコマニー的な方法ももう一つの版形式の表現というところを、学生に説明しているわけです。

その辺のところは造形大で版画コースに入る以前の段階で試みられているカリキュラムですね。

**馬場** それにつけ加えますと、学校全体、教員の考え方としては、たとえばシルクスクリーンのようなものは版画という考え方ではなく、表現技術というところを、だからぼくなんかほかの教官と話をしていると、こっちが逆に少し遅れているんじゃないかと感じたわけです。われわれその他デザイン学科の教官なども、シルクスクリーンは表現技術だと考えているから、だからあえて版画として取り扱わなくてもいいんじゃないかという考えを持っているわけです。

そういうことから、原先生がいわれたように、絵画科全体に美術の一つの表現手段として版形式のものを使うということが当然出てくるわけだし、確かにいまの美術の動き自体、いわゆる版画的な表現方

法が大きなジャンルを占めてますね。そういうところから逆に出てきた考え方と、従来の石版なり銅版なり木版なり、そういう版画プロパーのものとの相関関係が問われているんじゃないかと思いますね。

**中林** 本当にそうですね。われわれは狭い意味での版画家を養成するという観点からだけ考えてはいけません。大学の中では版画というものを一つの芸術のメディア、表現方法としてとらえていくという見方が必要だと思います。

前の問題にもどりますが、美術大学の中では油絵の学生に限らず、デザイン科も日本画もそうだと思うんですが、広く版画を志向する学生たちにはある意味で門戸を開いて、そういう学生たちの要求も版画のセクションが満たしていきながら、なおかつ自分のところの専門でやろうとする学生たちの教育も同時に持っていかなければならない。そのあたりに版画科として一つの形をまとめた方がいいのか。あるいは版画コースというものの内容をもう少しふくらまして煮詰めていく方がいいのじゃないかということもかなり出ているわけですが、その辺の将来のビジョン、展望をひとつ伺いたいと思います。版画科にする方に進めていくか、もっと広く開かれた版画の教育形態を持つべきなのか。

**吹田** そこへきちゃうと、油絵科というセクションが疑問になるし、日本画、彫刻科というセクションも疑問になる。いまぼくらはそこにぶつかっているわけだけれども、本当は美術大学自体、もう少しご破算で願ひましてはとまっさらにして新しく組み立て直すということをしなきゃならない。だから原先生から出たように、油絵、ペインティングの前に版画的なものも組み込んでいくとか、馬場先生がいわれたように、シルクスクリーンはもう表現技術として考えているということも、すべてはそこにあるわけです。

ですから極端な話、ぼくなんか常に考えていることは、美術大学の科自体を組み立て直さなきゃならないと同時に、入試も考えなければいけない。どういふ人間を美術大学が養成して社会に出すか、そのあたりがもう明治以来のものは崩れているわけですね。

**中林** それなのに、システムはまだそのままです  
から。

**吹田** にもかかわらず油絵は油絵を固守し、日本  
画は日本画を固守する方が、作家が教官である間は  
非常に楽な方法なんです。いいかえれば、いわゆる  
職人が大学の教員として入ってきてやっているわけ  
ですよ。職人という用語弊があるかもしれませんが。  
教育の勉強をしていない作家が入ってきて、そのま  
ま教育している。ところが場所は教育の場であり、  
そのカリキュラムは大学の美術教育ではどういう人  
材を社会に送り出すかということで4年間のシステ  
ムができています。その辺が非常にあいまいな  
まま、旧来のしきたりでやっているんですね。

ところが版画は新しいものだから、非常に新しい  
考え方をしているわけです。だから版画が悪いんじ  
ゃなくて、いれものが悪い中で版画が非常に良心的  
に新しい考え方で悩んでいるということです。

**中林** 現在の美術大学の持っているいわゆる油絵  
科、日本画科、彫刻科というようなものを取り払っ  
て、新しいシステムが土台からできればもちろんい  
いわけですが、そこまで問題を広げるとわれわれの  
手に余ってしまいますので、当面現場に立っていて、  
たとえば女子美が版画科に運動してなっていったよ  
うに、芸大でも毎年概算要求を出しているわけですが、  
その辺をどのように持っていったらいいか、ある  
いはどういう方法がいいのじゃないかというよう  
なところをお話いただければと思います。

**吹田** 多摩美でどうするかということがここでま  
たせつかれているわけですが、多摩美の場合には  
版画専攻が油絵の中にあるわけです。油絵の学生  
は3年から版画専攻することができる。ところが日  
本画や彫刻からも、おれたちにもやらせてという  
意見が強い。芸大もそうですけれども、現実にデ  
ザイン科の中に版画の設備ができています。多摩  
美もできています。それじゃここで版画科が独立  
した場合に、デザイン科の版画、油の版画という  
のがなくなるかということ、やはりあるとぼくは  
思うんです。そうすると、版画科というのができ  
て、版画をやれる場所が油の中にもある、デ  
ザインの中にもある。これはほとんどシルクス  
クリーンですけれども、織染の中に

もあるという形になってしまいそうなんです  
ね。

**中林** 芸大の場合はビジュアルデザインの学生  
たちが非常に版画に興味を持っていて、版画研  
究室の方に集中講義でとりにくる。どうしてビ  
ジュアルの先生方が版画を学ばせによこすか  
という、本道に接しさせる、版画専門家を  
養成する版画研究室に学生たちを触れさせ  
る、それが一番の眼目だと考えておるわけ  
です。現実に集中講義が終わると版画の技  
術が身につきますから、自分のところへ帰  
ってから自分の教室で使うことができる。  
ですから芸大では近ごろ共通工房としての  
側面を強く出さすようになってきました。  
木工室がそうですし、写真センターが  
そうですし、版画がそうなんです。しかも  
版画は各科からの要望が非常にあります。

そこで大学のビジョンとしては、版画専門  
の教育の外に共通工房というのを一つつく  
って、そこに版画の施設を置き、教育は  
版画研究室の教官が立ち合う。しかも  
学生たちはどこの科でも共通工房を使  
うことができるというような構想を打ち  
出さすようになりました。

そういうふうな大学自体も揺れ動いて  
いる面があって、われわれの今後の方向  
の指し示し方によって、根底から取り  
払えないけれども、かなりの部分は現  
状に即した教育が形づくられていくん  
じゃないだろうかという期待もあるわけ  
です。

**吹田** そういう問題は多摩美でもあるわけ  
ですが、たとえば版画専攻の学生は順  
番に基礎から習ってきて、自分自身も  
版画の作家になろうという意欲に燃  
えて技術もマスターし、だんだんうま  
くなっていく。ところが他の科から共  
通工房にくる人間は、自分の目的は  
デザインであり、日本画であり、彫  
刻であって、それを複数としてやると  
か、版画がどのようなものであるか  
ということを経験するために来ている  
わけでしょう。そうすると、それを  
受け入れる工房の方は、初心者  
を絶えず受け入れているわけで、  
そうすると、まず教室を使う学生  
は自分の場所ではなく、よそへ  
行ってちょっとやってみるという  
非常に無責任な態度になりがち  
であり、用具の使用、後始末の  
仕方です。いろいろ問題が出てくる。  
バッタのごとくやってくる初心  
者のやるものを処理する立場の  
人間の

方は、非常に意欲に欠けてくると思うんです。

**中林** 共通工房といっても、だれでも好き勝手に使えるというわけじゃなく、美術学部の中の共通のテーブルの中でカリキュラムが立てられていて、ある期間は油絵の2年生に使わせる、この期間はビジュアルデザインの学生に使わせるということで、その教育は版画の専門家が立ち会うということにならざるを得ないと思うんです。そこで思い出すのは、造形大の技術センターですか……。

**馬場** 造形大の場合、部会制になっておりまして、一般教育部会、共通部会、専攻専門部会、技術部会という4部会制で、技術に関することは技術部会で全部引き受ける。版画の一部もそこに組み入れちゃっている。ですから絵画科の専攻に版画の工房を持っていると同時に、もう一つ技術部会に版画の工房を持っているわけです。そこで全学的に一切合財の専攻科の学生の基礎技術的な版画は全部教える。

**中林** それは版画の先生方が教えるわけですか。

**馬場** 版画専門プロパーのものはわれわれがやるわけです。原先生がシルクスクリーンを担当し、私が銅版を担当して、ある成果はあげていると思うんですが、また問題点もいろいろあるんです。

**原** 技術部会の中に印刷1、2があって、オフセットとか写植なんかを基礎的に教える。それは専門家が教えるわけですが、それと版画と共通する部分が非常にあるわけです。ですから印刷と版画が一緒になって、印刷版画センターのようなものが生まれてきそうな機運は非常に感ずるんですね。最近版画が技術一辺倒のような傾向があって、それを前進させていくと印刷ということになってしまうんですね。その辺に非常に問題があるような気がします。

**吹田** 版画を印刷とか木工と同じように技術職員を置くような形にしていくことが版画として意味があるのか。そうであれば日本画にしても油にしても、技術面はそういうところで処理しなければいけないわけです。ところが油とか日本画でそういう技術的な処理のできる教員が何人いるのか。ほくは木工も油も日本画も版画も、技術面は総じて全部同じだと思うんです。片一方、技術面でそろえるのであれば、絵画に対する思考面は思考面で考えていかなきゃい

かぬ。ところが油や日本画は切り離さないで、どうして版画は切り離されるんだろうかという考え方があるんです。

もう一点は、そういう形でやってきたときに、女子美の田村さんあたりは版画科をつくって、そこらの問題はどうなっているのかということですね。

**田村** これは版画に限らないんですが、よくいわれるのは、技術オンリーに陥るということですね。ただ物物の考え方として、常に版を根底に置いて物を考えてもいいのじゃないか。版画科をつくった結果として、今後4年5年と進むにつれて、版をいじることによってもっと造形的な活動をしていってもいいんじゃないかと、逆に考えたい気もするわけです。

**吹田** 版画科をつくって、日本画や油で版画をやりたいという人がいるでしょう。デザイン科の人が版画が必要だ、印刷の基礎だという考え方もあるかもしれないけれども、そういうところの処理はどうなっているんですか。

**田村** 女子美の場合は、ほかの科からの希望は余り聞かれないですね。いままで油絵、日本画、デザインとあって、油絵の中にいまのところ独立しているけれども版画があるということで、学校全体で考えた場合、一つの版画のセクションがあるということで済んでるような感じがします。というのは、かなり伝統というものがあって、他の大学よりも垣根が固いように思うんです。版画科をつくる一つの目的として、全校を改革することはなかなか手に負えないから、不足している部分を足すという形で版画科が存在するみたいな点もあるんですね。

**吹田** 版画が非常に技術的になってきているということで、私はいつも疑問を感じるのですが、たとえばことしの東京版画ビエンナーレで李禹煥が賞をもらってますけれども、これは非常に哲学的というか、思考的というか、技術的な版画というものとは全く違うわけです。彼が最初にやったのは、描くという問題で、キャンバスの上に絵の具をずっとただ塗って描いていく。そのかすれなんかはずっとある。それで描くという一つの原点を志向した。それが今度木版を彫るという原点を志向して、それはただ

きれいにさらえただけです。そのさらえた跡だけを刷っているわけです。

今度の東京版画ビエンナーレを見ると、アメリカあたりでも紙をすいて、それが自分の作品であるというんですね。いわゆる手仕事というか、絵画の原点、版画といってもいいけれども、そういうものを考えようという形が国際的にも出てきている。そうすると、いわゆる版画というのは、エッチングとリトと木版という考え方があって、エルンストなんかはフロッタージュ、日本でいう乾拓が向こうへ行くとフロッタージュになって絵画として再構成されてボンと帰ってくるわけです。そういうところで世間一般も学校全体も版画家も、版画は技術だという方にずっと押しやってきて、木工教室、印刷教室と同じように、技術のレベルに版画が入っていく。

そういうことと現時点での国際展なんかを見ると、学生たちは版画家として出ていくことが目的であって、そのためにカリキュラムが組まれているとするならば、彼らが出てきたときには、彼らは技術者であって版画家じゃなくなっているという要素もあるわけです。そこらにもむずかしい問題があるようですね。

これは油も日本画もそうですけれども、大作家が美術大学の教授であった時点では、少なくとも形のあるものを描ける人間、描写力のある人間を養成していけば、絵かきとして余り恥ずかしくない人間を送り出すことができた。

ところが学園紛争が起こった時点からは、少なくとも描写力のある人間を送り出しても作家になれないという社会情勢になっているわけでしょう。大学の場合は卒業してどういう作家たり得るかという目標があって、それで学年刻み、月刻みで送り出していくというか、育てていくというか、それがカリキュラムでしょう。だから非常に多様化してしまった状態の中で、どういうカリキュラムを組んだらいいか。もちろん大作家の一方的な考え方だけでは多様化に応じ得る教育体制はできない。ですから当然カリキュラムの問題がやかましくいわれると思うんですね。

**馬場** 現代美術の抱えている一つの最先端といえ

るかどうか知らないけれども、ある様相をとらえた、そういう傾向のある展覧会がありますね。その反面、あとの99%は従来の版画の立場に立っているともいえるわけですね。われわれ自身もそういう考えをかなり持っているわけですが、社会的要請というものからすれば、現代美術の最先鋭のものも一つの要素かもしれないけれども、最大公約数的に考えていかなきゃならない面もあると思うんです。それで版画科というものの存在価値は、社会的要請があれば存立し得るし、またいまの状況を見ると、版画科オンリーで、たとえば油絵科、日本画科と併存もあり得るんじゃないかと思うんですね。

**吹田** それで非常に技術的な方法に押しやられていくというか、版画と木工の機械室、印刷室と並立していくことに対する危惧は……。

**馬場** それは広く門戸を開放していくという一面があるわけです。しかし逆に、狭い本当の専門分野になっちゃうかもしれないけれども、銅版なら銅版、木版なら木版の徹底した技術を覚えて、それを自分の表現にしていきたいという考え方も一面ではあると思うんです。そうなってくると、いろんな要素に対応していくものが版画科といえるかどうかかわからないけれども、そういう核みたいなのがないと対応できない。そこら辺に大学における版画科というものの必要性があるんじゃないか。そしてそれは3年生からのコースとしての存在と、もう一つ版画科プロパーの存在というのがあっていいんじゃないか。それは全部の学校にある必要はないけれども。女子美がすでにスタートしてますが、何かそういう版画の芯になるものが学校の中にあっていいと思うんですね。

**中林** 吹田先生なんか展望をまじえて、どういう位置に大学の中の版画というものを考えておられますか。

**吹田** 現時点では、版画科という女子美のような形があって、片面、版画工房というか、日本画、彫刻、デザイン、油絵の人たちが来て自由に版画をやる場所がある、デザイン科と木工教室が別にあるように、二通りでいくべきだと思う。そして版画工房では技術職人みたいな人がいて、短時間のうちに

版画を技術として初歩から教える。片方の版画科では、版画というものを絵画として考えることも、一緒に教えていく。ただ最近感じていることは、エッチングもリトも区分けしないという部分があってもいいんだけど、もう少し考えないと、結局即技術的な方向に行ってしまうということなんです。

**原** ばくも吹田先生の考え方に近いんですが、いままでの版画の教育は、どちらかといえば技術が大前提でカリキュラムも立てられていたと思うんですね。それがここへきて、それだけではちょっとということですよ。それは版画的な表現方法がいろいろ出てきたということもあるでしょうし、また創作版画といわれていたところから幾らか離れて、自刻自刷りから離れて、分業ということがいわれるようになってきた。かつまた複数性ということが非常に問題になってきて、版画家以外にタブロー作家なんかもよく版画をつくるようになった。

いろんな意味で版画というものが社会的関心と呼んで理解されてきたんですけども、その中で版画の本当のおもしろさというものは、逆に少しずつ失なわれているのじゃないか。ことに学生の作品なんか見ると、技術はすばらしいけれども、余りおもしろくなくて、同じような傾向のものが多い。

その辺から、版形式というような表現を考えていくとか、何らかのそういう形での領域がもう少し確立されていいような気がします。それは先ほどいわれた3版種、シルクスクリーンを入れれば4版種ですけども、そういうふうに分けるんじゃなく、かつまた複数性ということに余り重点を置かないで、極端に言えば一品制作でもいい。ただ版形式を得て版という表現方法を掲げた上で作品をつくる、その辺にばくは興味を持っているわけです。具体的にどういう形で現在の美術大学の絵画科の中で位置づけていくかというのはむずかしいですけども。

**田村** カリキュラムの内容的な問題をわれわれの版画ということで考えても、結局は版画だけの問題じゃないみたいですね。要するに、どういう表現をする作家を育てるか。女子美の場合たまたま具体的に4年の時点で表現する方法として版画を選んでいくということで、版画の技法・版画の表現方法を学

ぶわけです。内容的には別に版画であろうがなかろうが、そんなに変わりにはないわけです。それは別に版画科であるから考えなければいけない問題じゃなくて、美術をやる全ての人間が考えなきゃいけない問題だと思っんです。

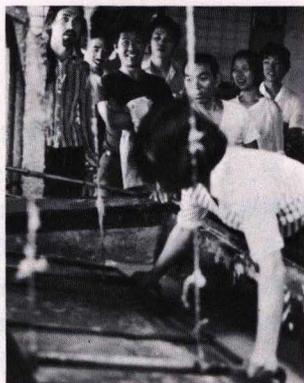
**中林** カリキュラム分科会でカリキュラム私案をつくった時に、版画センターあるいは版画研究所という構想が考えられましたね。いま考えてみますと、具体的ではなかったけれども今日皆さんのおっしゃったような内容を含んだものだったように思います。

各大学、国立、私立でそれぞれに事情がありますから、一概にこういう形ということはいえないと思いますけれども、今の時点でこれからの版画教育を考えるとときには、どうしても版画プロパーの養成と同時に、それ以上の比重を持って版画を一つのメディアとして扱えなければいけないという点が大切になって来たんだと思います。また版画プロパーの教育の中にも、版の領域を拡大させるとか、さっき原先生がいわれた版形式の思考を育てるような、広い意味での造形教育がなされてゆかなければならないということですね。

まだまだ有意義なお話が続きそうですが、今日はこのへんで、ありがとうございました。

(文責・中林)

カリキュラム実施の具体例



カリキュラム私案後の分科会の研究を先を進めていく為、カリキュラム私案の欠如している部分を補う意味で各大学において実施されている具体的な内容を持った主旨のアンケートを行なった。アンケートの中で指摘された全体的な問題点として、現状認識の上での美術教育の中の版画の位置づけ—版画プロパーと版画専攻コース—の問題と、どんな美術作家を育てるべきなのか、その為のカリキュラムとは何か、版画を技術面のみでとらえることに限界がきており技術偏重に落ちいりがちな面をもっと絵画思考的な関連の中で考えていくべきである点が出された。アンケートは大きく分けて版画実習の実施内容と版画以外の実習からなり、以下その具体例を列記します。



● 素材研究

グランド、インク製法、和紙見学、薬品、腐蝕液の化学等。素材に対する関心を高め自らの創作法に合った素材の選択と活用。

● 伝統技術見学実習

伝統技術の基礎を知ることによってそれをベースとした自分の技術を習得する。

● 版画とタブローについて—夏期課題として—

3年次前期に版画基礎実習を行なうのでその制作作品と版材の制約を受けなくて制作されたものとを比較。タブローとしての方向の中に版画の要素を多分に含んだものが多くそれらのものを版画の実習の中に研究テーマとして加えていく。油彩2点、水彩3点、エスキース10枚。

● プリューゲルの腐蝕による模刻

複製よりの模刻のため正確さは望めないが線による表現の可能性、描き込み、腐蝕等について考える。

● 版形式による絵画表現

キャンバスに絵具と筆という方法をとらずにシルクで刷る、デカルコマニーをする、コラージュをする、フロタージュをする、ドロッピングする等。

● シルクスクリーンと描画

人物コスチュームの部分を写真に撮る、写真製版でシルクにして、キャンバスに刷る。その上から種々の素材で手描きを加えてタブローとして制作する。

● タブローと写真の比較—絵画の平面性を考える—  
モチーフとして平面的なもの（板、ベニヤ、鉄板、アクリル等）を選びキャンバスに素材を自由に扱って制作。その同じ写真により比較しながら批評する実験的な試みを体験することにより創作思考の上で何か触発されることを目的としている。

● 造形構成論、実習

版画史を中心とした美術史のレクチャー。

技術論を中心とした瀬木慎一氏による版画史講義。

● エッチングによる自画像

版画科の最初の課題として下絵からはじめ銅版へと入っていく。版画の要素よりもここでは版のもつ過程を利用してデッサン力を養ない、同時に銅版画の初歩的な技術も習得させる。

● 画集制作

数点を限定30～40枚刷、版画制作面での刷のプロセスを知る為。部数5部、内容は自由、作品数5点以上製本も各自が行なう。版画の有効な利用価値、版画制作上の熟練度の要求、制作態度がわかる。時間、費用などで問題点もある。

● 講話または技法公開

特別講師による版画講話と実習。多様化する版画領域を鑑みて制作以前の問題についての講話、技法公開による実習と方法論、なるべく多くの出会いによる視野の拡大などを目的とする。小野忠重氏の版画の歴史、岡田隆彦氏の転写、池田満寿夫氏のルーレットによるメゾチント、原健氏による体験的講義、福田繁雄氏による立体造形等。以上は東京芸大、愛知芸大、女子美大の例である。

## ▶ カリキュラム分科会報告 カリキュラム案

### 版画科カリキュラム案について

#### カリキュラム委員会

美術大学に版画科を設置しようとする動きに応じてそのカリキュラムを如何にすべきかは研究会発足当時からの懸案であり、昭和50年頭初女子美大での版画科発足を目前に急拠その原案を作製した。

この早急とも言える原案作製には既に永い間各大学で実施して来た版画基礎教育、専門教育の経験が非常に役立った。その後研究会発足とともに各校の情報交換、実地見学が行なわれ易くなり、詳しいアンケート調査が行なわれたこともあってカリキュラム原案が更に修整されおよそ次のような形にまとめることが出来た。

実際問題としてⅠの基礎教育課程の一部、Ⅱの専門教育課程のほとんどがそれぞれの学校で現実に行なわれており、これを一貫して見れば版画科カリキュラムになり得ることである。現実的には大学全体のカリキュラムとの関係で色々の制約があり、この点女子美大では実際の運用上かなり苦慮している。

今後は次の座談会で述べられている諸問題、女子美大での4年間の成果、各学校でのカリキュラム進行状況を勘案してより進んだ形でのカリキュラム検討に入りたい。また一方ではカリキュラム運営上の具体的諸問題、技術、一般教育の具体的内容に関しても次の機会に取り上げたいと思っている。

これをもって一応カリキュラム委員会の報告とさせていただきます。

(委員 = 中林、田村、馬場、原)

### 版画科カリキュラム案

#### 版画科

版画の実技実習を通して、造形感覚および技術を練磨させ造形活動の専門家を養成し、合わせて版画教育者、版画技術者の養成を目標とする。

#### 教育形体

- イ. 学部1、2年次を基礎教育課程とし、油画科と提携して広く造形の基礎的能力を開発、練磨せしめ、合わせて版画造形の基礎的技術を習得させる。
- ロ. 学部3、4年次を専門教育課程とし、銅版、石版、木版、孔版とそれぞれに専門的な実技実習を行ない専門的な技術の習得と合わせて創作法を学ばせる。

#### ・専攻選択一

基礎教育課程終了後、所定の手続きを得て銅、石、木、孔の4版種のうちから、専攻する版種を選択させる。但し、専攻選択後も他版種の履習を妨げるものではない。

#### ・編入(試験)一

基礎教育課程終了後、所定の手続き(審査)を経て油画科から版画科へ、版画科から油画科への編入を認める。

- ハ. 学科目は美術学部共通。学部を卒業するまでに所定の単位数を習得しなければならない。

(48単位)

- ニ. 学部卒業後、さらに研鑽をつみたい者のために、大学院美術研究科版画専攻を設ける。

#### 入学選抜試験

版画科として独自の入試を行なう。

例えば、1. 人物素描(木炭、コンテ、鉛筆)

2. 課題によるイメージ表現

(イメージドロウイング)

3. 学科(外国語、社会、国語)

I. 基礎教育課程

イ. 広く基礎的造形力を養うことを目的とし、必要に応じて油画科と提携して実技実習を行なう。

1. 素描実技実習（木炭、コンテ、鉛筆）
  - ー 静物、人体
2. 着彩実技実習（水彩、油彩、パステル）
  - ー 静物、風景、人体
3. 版画思考からの造形課題
  - ー コラージュ、平面構成、イメージドローイング、コンポジション
4. 塑造実習、立体造形（集中講義）

指導に当っては、版画科基礎教育課程教官が、担当するが、実技内容によって油画科基礎教育課程教官に委任もしくは提携して行なう。

ロ. 将来の版画創作にそなえ、銅版、石版、木版、孔版それぞれの基礎的実技実習を行ない、版画の基礎的技術の習得を目指す。

1. 古典模写、模刻
2. 版種別実技実習
  - 銅版画 ー ドライポイント、エッチング  
例えば自画像による。
  - 石版画 ー 直接法(クレヨン解墨)、線描、平面化、構成あるいはイメージ表現
  - 木版画 ー 主版法
  - 孔版画 ー カットティング技法、焼付製版技法

ハ. その他

1. 古美術研究旅行
2. 印刷所見学
3. 素材研究
4. 版画鑑賞

II. 専門教育課程

イ. 版種別の実技実習を通して、専門的な技術の習得を目指し、合わせて創作法を学ぶ。

1. 銅版画実技実習
  - ー 直接法 (dry point, engraving, mezzotint)
  - 間接法 (etching, aquatint, lift ground, 多色銅版画)
  - 複合技法 (写真製版、一版多色刷、他)

2. 石版画実技実習
  - ー 直接法 (金属版法、石版法)
  - 転写法、写真製版法

3. 木版画実技実習
  - ー 主版法、陰刻法
  - 木口木版法

4. 孔版画実技実習
  - ー カットティング技法、写真製版法

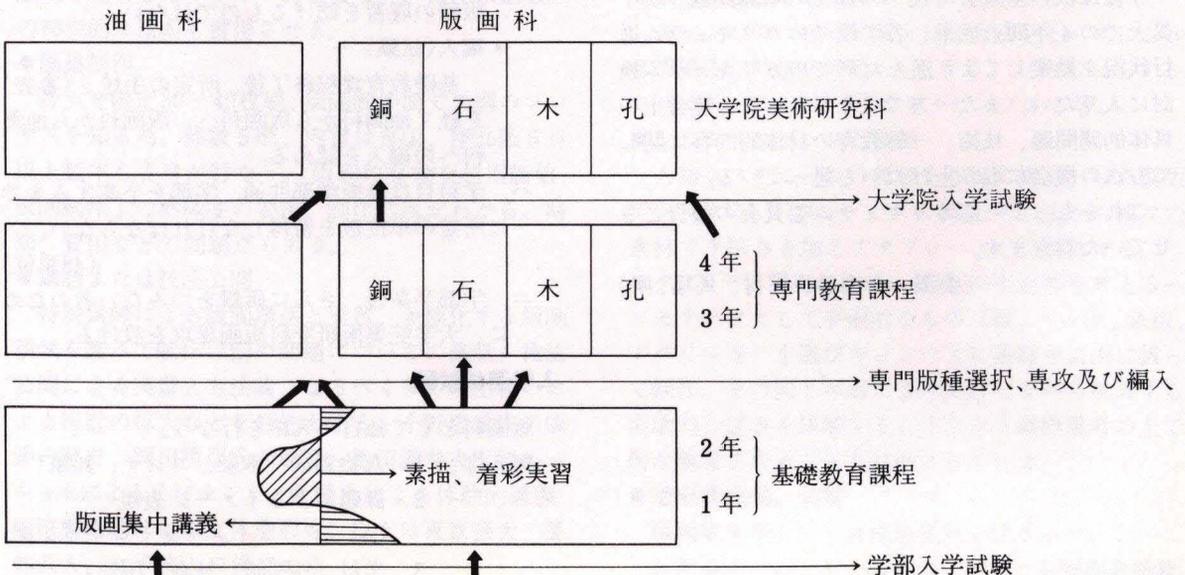
ロ. 素材研究

グランド製法、腐蝕液研究、刃物、プレス機能、インク製法、紙研究 etc. 各種薬品研究

ハ. セミナール

現代版画、版画史、現代テクノロジー、印刷概論、etc.

ニ. 卒業制作 (画集制作を含む)



▶ カリキュラム分科会報告 (カリキュラム表)

基礎教育課程 1年次

月	4				5				6				7	8	9			10				11				12				1				2
週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
12 単位	ガイダンス	銅版画実技実習 ・dry point ・etching				素描 静物、人体 (木炭、コンテ、鉛筆)				自由制作				夏季休業	自由制作			素描人体	塑造実習	木版画実技実習				冬季休業	イメージ ドローイング カラージュ									

基礎教育課程 2年次

月	4				5				6				7	8	9			10				11				12				1				2
週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
12 単位	石版画実技実習 直接法				着色 静物、風景 (水彩、油彩)				立体 造形 実習				夏季休業	自由制作			孔版実技実習 直接法、写真製版				イメージ ドローイング	冬季休業	版画創作研究 銅、石、木、孔 摺											

専門教育課程 3年次

月	4				5				6				7	8	9			10				11				12				1				2
週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
24 単位	ガイダンス	専門版種別による実技実習 銅、石、木、孔				自由制作				自由制作				夏季休業	自由制作			素描人体				専門版種による 実技実習				冬季休業								

専門教育課程 4年次

月	4				5				6				7	8	9			10				11				12				1				2
週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		
28 単位 (うち卒制12単位)	専門版種による実技実習 (各版種別カリキュラムによる)				自由制作				自由制作				夏季休業	自由制作			人体素描				専門版種による 卒業制作				冬季休業									

大学院美術研究科 版画専攻 1年

月	4				5				6				7	8	9			10				11				12				1				2
専攻	週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
版画第1講座	銅版画	直接法 dry point engraving, mezzotint				間接法 etching aquatint, lift ground				グランド製法 腐蝕液 硝酸、塩酸				専攻以外の版種に おける実技実習	複合技法 intaglio print 写真転写、写真製版、色彩凸凹版、創作研究																			
	木版画	主版法 一版墨刷、多色刷				陰刻法 単色刷、多色刷				素材研 刃物 馬連製法					木口木版法 油性インクによる刷研究				凸版印刷技術				版画史の 研究											
版画第2講座	石版画	直接法 金属版による 技法 クレヨン、解墨				石版石による技法 印刷オフセット				プレス機能 チン板、 スキージ				転写法 コロンペーパー、チャイナ紙 石版フィルム、黑白反転法																				
	孔版及び 総合版画	カッティング方法、グランド用紙、ラッカーフィルム 水性フィルム、接着法とスクリーン刺離法												インク、 溶剤				写真製版法 乳剤塗布、焼付、乾燥、水洗、印刷																

大学院美術研究科 版画専攻 2年

月	4				5				6				7	8	9			10				11				12				1				2
専攻	週	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	
版画第1講座	銅版画	創作研究 一 自己の技法、プロセス												修了制作のための エスキース制作	専攻版種による修了制作																			
	木版画	創作研究 一 自己の技法、プロセス																																
版画第2講座	石版画	創作研究 一 自己の技法、プロセス 写真製版法、電子製版による色分解 P.S板による製版																																
	孔版及び 総合版画	創作研究 一 自己の技法、プロセス																																



**造形大学版画教育に想う 造形大 高瀬元彦**

私が卒業して3年になるが、入学時は、ちょうど大学紛争の中で、その中に放り込まれた私達は、ただ右往左往するだけだった。そうした中で、描く事に意義を見出し、ひたすら筆を動かしていた人達も居た。大学が一応のカリキュラム通りに進むにつれ、3年生から、専門分野を選択する事になっていた。具象、抽象、版画コースとあったが、これのどこにも属さずに自主ゼミを形成する者も居た。

こうした中で版画コースでの教育は、ゼロから出発していたように思う。今まで専門に絵を描いて来た者でも、版画と言うと小中学校でやった木版画程度の知識しか持ち合わせていない者が殆んどのようであった。私もその一人であり、従って版画コースでの2年間は、技術の習得に終止したと言っても加言ではないと思う。卒業時にある教授が「表現技術を学ぶ前に、すでに表現とは何かと言う問題提起を、厳しい現実(大学紛争)から強いられた。」と結んだが、版画専攻の私にとって、表現技術を学ぶのに精一杯であった。しかし技術は学ぶものでなく発見するものである事を理解出来たのも、そうした繰返しの作業の中からであった。私達のやっていた版画は拙いものであったが、いつも新しい表現に歓喜し、他学生や有名版画家の作品に接し、その表現技術を見破る事に没頭した。こうした版を通した表現は、一つ一つが新鮮に思っていたようだ。大学ではリトグラフと銅版が主であったが、木版に力を入れられなかったのは残念であったように思われる。

しかし造形大での版画教育は、こうした技術指導よりも、諸先生方と学生との密な会話が一つの版画を通して一個人の生活にまで及び、ある種のファミリー的な関係で指導していた事は、学生生活の中で何よりも重大な教育であったように思われる。



**版画実習とカリキュラムについて 日大 加藤準治**

現在、本学の版画専攻学生数は、2年制の研究生も含め、20名ほどが在籍しています。

学生は2年次に、4週間、初歩的な技術を以って、エッチング、リトグラフの実技を経験します。

3年生になると、10名ほどの専攻生を募り、銅版、木版、リトグラフの実習を年3期に分けて行ないます。この年次は特に、各版種のもつ様々の技術習得にあてます。

4年生になると、3年次の経験をもとに学生自身が版種を選択し、各工房に別かれて制作にあたります。

以上がカリキュラムの概要です。

本学で版画が盛んになり始めたのは、ここ3、4年の間です。そのために、機材等の設備や工房のスペースなど、大学側の抱えている問題は数多くあると思います。

スペース拡張の問題は美術学科全体に関する難題ですが、設備に関しては教師の方々の努力で、年々改善されてきています。

恵まれた環境が、質の高い作品を生むとは思いません。要は学生の主体性にあると思います。しかし、上記のカリキュラムで基礎的な技術の指導をうけ、それ以上のものを研究していくうえで、環境に関する諸問題の改善が共同のスペースで制作にあたる学生を、精神的な拘束から解放し、より高い次元のものに展開させてゆく可能性を導いてくれると思います。

しかしながら、この要求を提起するために、私達が現在の各々の姿勢を顧みる必要があることを、認識しなければならないことは言うまでもありません。

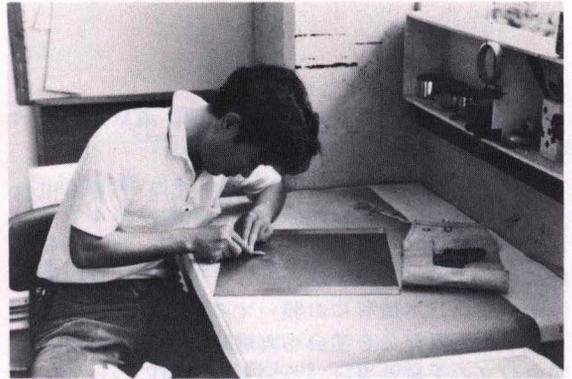


版画の実習とカリキュラム 多摩美 黒田茂樹

多摩美は、3年次より版画の教室を選らぶ事が出来る。最初は、9週間の基礎実習から始まった。この基礎実習は3週間づつ3つのブロックに別けられ石版、木版、銅版の各版種の基本的な技法説明を受けた。(各版種とも、版材と最小限必要な道具は、研究室で準備されていた。)そののち各自、自由な制作に入り各自の制作をとおしてそのつど技術的指導を受けて行なったのであった。この段階において合評会をとおし、各自の造形性にあった版種の選択を行なっていった。私の場合、最初に選択したのは、リトグラフでありましたが、のちに、銅版画の持つマチエルの美しさに心引かれリトグラフでやっていた仕事を銅版画におきかえて制作を進めて行き私の観念の形像をまがりなりにも発見する事が出来たように思いました。基礎段階においても、自由制作段階においても多摩美のカリキュラムは、非常に多密度版とのかかわりあいも、版に絵を描くというよりも、なにか不思議な素材と自己を格闘させている感じであった。

卒業時にあたり、限定45部の画集を制作した時も、版とインクと紙と自分との格闘であり45部の完全なプリントを取るためには、何倍ものプリントをしなければならなかった。

このようなカリキュラムを消化して行く過程において、自己の内面の創造と表現技術とのかかわりあいにおいて一つのテーマを見つけることは出来たが、これらを広く展開して行くには、2年間という時間はあまりにも短く感じた。



カリキュラムについて 芸大 梅沢和雄

版画の中で特に銅版などは、そのプロセスの知識がある程度ないと話にならない。しかし、それを知らなければ絵は出来ないとと言うと、その表現においては別問題である。知識として体得したものが、その表現においてさまたげになるかと言うと、これは個人の能力の問題と関係してくる。

私達がカリキュラムといかにかかわっているかという事は大切な問題である。私達がカリキュラムの問題を取り上げる以前に、それを選択しているという状況があって、そのシステムにのった時、一番大切なことで、直接、カリキュラムにかかわってくる部分ば、その中で、自分自身とそれとの接点に合った時、自分自身が見えてくるか、こないかと言う部分だと思う。その辺を意識しないと、無意味にシステムに流されてしまう。学生に対して、そう言った場、機会を与えるのがカリキュラムの責任の1つだと思う。そして、それを見ていくのが学生である。

たとえば出会いがある。作家との出会い、作品との出会い、知識との出会い、技術との出会い。これらの多くの情報を閉ざされたカリキュラムでなく、もっと開かれたカリキュラムとして、その中で自分の存在を見ていく。

ことばの中に、自分自身に強く返ってくることばがあるように、作家やその知識との出会いは、逆に自分自身の存在を見させてくれる。卓上のカリキュラムだけでなく、もっと広がりをもったカリキュラムの中から、自分との接点、あるいはつながりみたいなものが見えて来るのではないか。版画を始めて4年間、私はそのへんを見てきたような気がする。

美術は生活と密接に関係していると言うことは、作家と社会とのつながりにかかわっていく。それは、カリキュラムの方向としても、同じことが言える。幸い、芸大はその方向にあるみたいです。

## ▶ 経過報告

梅津祐司

昭和54年6月13日。定例連絡会議。東京造形大学に於て。

53年度会計報告。(会計係引き続き一鎌谷氏)

第4号会報配布。会報係、渡辺氏より第4号会報について報告。千部刷り17万円の費用。第5号会報係に新しく山野辺氏参加。第5号会報は16頁程度のもので、新日本造形に願うする。

大学版画研究会を学会へと進める事を検討する。学会設立の手続き等、いろいろな問題について吹田氏に調査してもらうことになった。

賛助会費を一口1万円から2万円にする。

版画家の健康管理に関する講演を企画する。

第四回大学版画展について。会期7月30日(月)～8月11日(土)。今回も大阪フォルム画廊のご好意で開催。(展覧会総務一原健氏)、出品校29校(賛助出品校3校を含む)、総点数117点。

ポスター案内状(芸大作制)配布。

## ▶ 会員名簿

阿部 浩 千代田区外神田2-18-7  
〒101 TEL 03-251-1474 武蔵野美大

相笠昌義 座間市立野台540  
〒228 TEL 0462-54-0279 女子美大

相沢美則 杉並区久我山5-1-22  
〒168 TEL 03-334-9521 文化学院

秋元幸成 滋賀県大津市大谷町24-14  
〒520 TEL 0775-25-7927 滋賀大学

有地好登 所沢市上安松221-1  
〒359 TEL 0429-44-6538 日 大

東谷武美 埼玉県上福岡市駒林436-3  
〒356 TEL 0492-63-4779 一 般

稲田年行 町田市三輪町1939  
〒194-01 TEL 044-988-3339 岐 阜 大

今井治男 弘前市学園町1-1 弘大宿舍32-4-32  
〒036 弘 前 大

梅津祐司 板橋区蓮沼9-4 越路館103  
〒174 TEL 03-965-8918 芸 大

小野克子 昭島市西武蔵野1388  
〒196 TEL 0425-43-0891 女子美子

小作青史 世田谷区羽根木2-32-6  
〒159 TEL 03-321-7221 多摩美大

小沼隆一郎 国分寺市本多1-10-21 札ノ丘荘102  
〒185 TEL 0423-25-5144 武蔵野美大

小山 松隆 千葉市花見川9-11-301  
〒281 TEL 0472-58-3949 日 大

大本 靖 札幌市中央区円山西町491  
〒064 TEL 011-611-0722 北海道教育大

太田 広 神奈川県横浜市旭区鶴ヶ峰1-72-2  
〒236 TEL 045-371-2561 名古屋造短大

岡部昌生 札幌郡広島町字西の里379-211  
〒061-11 札幌大谷女子短大

鎌谷伸一 横浜市金沢区平潟町31-1-814  
〒236 TEL 045-781-1872 芸 大

河西万丈 山梨県大月市猿橋殿上483-1  
〒409-06 TEL 05542-2-6174 都留文化大

河内成幸 多摩市桜ヶ丘4-26-33  
〒192-02 TEL 0423-71-4687 多摩美大

加藤れい子 埼玉県狭山市入間川4-25-23 ハウス2008  
〒350-13 TEL 0429-53-9174 女子美大

城所 祥 八王子市本町35-6  
〒192 TEL 0426-22-5857 武蔵野美大

北岡文雄 杉並区和泉2-27-8  
〒168 TEL 03-328-3361 武蔵野美術学園

清塚紀子 板橋区幸町13-5  
〒173 TEL 03-955-2300 造 形 大

木村秀樹 宇治市伊勢田町名木2-1-127  
〒611 嵯峨短大

小林清子 渋谷区笹塚3-36-3 富士見荘21  
〒151 TEL 03-374-3762 女子美大

小林基輝 目黒区洗足2-25-17  
〒152 TEL 03-781-9529 女子美大

衆野憲治郎 愛知県愛知郡長久手町長湫下権田104-1 茜荘14号  
〒480-11 TEL 05616-2-0978 名古屋造形短大

斎藤寿一 川崎市幸区塚越3-375  
〒210 TEL 044-522-2007 和 光 大

酒井忠臣 福岡市東区松香台1-112  
〒813 九州産業大学芸術学部

笹本 純 秋田県秋田市泉字嶽根166 三浦方  
〒010 TEL 0188-33-5261 秋 田 大

清水昭八 小金井市梶野町4-16-27  
〒184 TEL 0423-83-3733 武蔵野美大

島田章三 愛知県愛知郡長久手町芸大公舎5号  
〒410-01 TEL 05616-2-0885 愛知芸大

白木俊之 長野市川中島町今里868-15  
〒381-21 信 大

▶ 会員名簿

園山晴己	世田谷区駒沢2-59-5 〒154	一 般	舞原克典	宇山市川田町1548-13 〒524 TEL 07758-3-0028	京都芸大
田村文雄	小平市学園西町2-12-8 〒187 TEL 0423-43-7282	女子美大	松川幸寛	狛江市宍戸北4-1-1 土屋方 〒201 TEL 03-488-4967	多摩美大
武市 勝	山口市木町8-5 〒753 TEL 08392-4-8405	山口大	松浦 昇	岐阜県大垣市上面二丁目提唐 〒503	大垣女子短大
高橋貴和	宮城県名取市名取ヶ丘5-1-1 〒981-12	宮城大	松島順子	大田区田園調布4-29-25 〒145 TEL 03-721-3062	一 般
津地威汎	徳島県徳島市吉野本町6-20-1 杉原マンション4号 〒770	徳島大	馬淵 聖	神奈川県茅ヶ崎市芹沢2511 〒253 TEL 0467-51-1497	女子美短大
燈野寿蔵	愛媛県伊予市灘町4丁目 〒799-21	一 般	皆川孝一	東久留米市神宝町1-8-8 〒180-03	日 大
中林忠良	埼玉県上福岡市駒林437 〒356 TEL 0492-63-1970	芸 大	宮田克人	高知県高知市朝倉乙870 〒780	高知大
野沢博行	刈谷市井ヶ谷町広沢1 愛知教育大洲原寮17 〒448 TEL 0566-36-5895 愛知教育大美術教室		宮下登喜雄	府中市新町1-12 〒183 TEL 0423-61-5634	福岡教育大
野田哲也	小金井市本町3-14-14 〒184 TEL 0423-81-9371	芸 大	村上文生	京都市右京区太秦原面影町6-1 〒616	嵯峨短大
長谷川光輝	鎌倉市二階堂851 〒248 TEL 0467-25-1459	日 大	望月詩子	西多摩郡五日市町伊奈810-4 〒190-01 TEL 0425-96-1215	一 般
馬場 章	浦和市道祖土381-4 長沢荘 〒336 TEL 0488-86-6307	芸 大	山野辺義雄	日野市三沢850 高幡台団地6-501 〒191 TEL 0425-91-9456	東海大
馬場構男	横浜市金沢区富岡町1197-186 〒236 TEL 045-772-1770	造形大	山本文彦	茨城県新治郡桜村天久保 芸術専門学郡内 〒300-31	筑波大
浜西勝則	泰野市千村742-151-508 〒259-13 TEL 0463-87-3779	東海大	横山貞二	小平市上水本町1282 二恭荘2号棟D号 〒187	一 般
原 健	世田谷区野沢3-13-12 〒154 TEL 03-421-2980	造形・日大	吉原英雄	大阪府高槻市東五百住町3-21-32 〒569 TEL 0726-96-2286	京都芸大
平川晋吾	宇都宮市峰町350 〒150	宇都宮大	吉田穂高	三鷹市井ノ頭1-13-40 〒181 TEL 0422-44-3923	女子美大
広畑正剛	世田谷区赤堤3-5-2 〒156 TEL 03-324-0532	玉川大	吉本 弘	愛知県愛知郡日進町岩崎元井ヶ7-97 〒470-01 TEL 05617-2-3565	愛知芸大
深沢幸雄	千葉市鶴舞308 〒290-04 TEL 043-688-2034	多摩美大	横田嘉雄	国分寺市本多4-17-6 ふじの荘6号 〒185	一 般
福岡奉彦	狭山市入間川4-25-23 ハウス2006 〒350-13 TEL 0429-53-7027	女子美大	渡辺達正	調布市上石原2-20-1 箕輪コーポ 201号 〒182 TEL 0424-87-9476	多摩美大
吹田文明	世田谷区砧3-33-4 〒157 TEL 03-417-7123	多摩美大	渡辺 満	相模原市橋本5-25-5 〒229	多摩美大
細田政義	世田谷区祖師ヶ谷3-39-8 〒157 TEL 03-482-3052	女子美大	渡辺明信	文京区向ヶ丘1-2-5 〒113 TEL 03-813-9050	文化学院
前川 直	岩手県盛岡市茶畑1-1-6 グリーンビレッジ C-411 〒192-03	岩手大	廖 修平	杉並区荻窪1-1-19 〒167 TEL 03-391-4554	筑波大

## ▶ 賛助会員名簿

- |                        |  |                   |  |
|------------------------|--|-------------------|--|
| 新日本造形                  | 中野区新井1-42-8<br>〒165 TEL 03-389-1221                          | クラタ商店             | 大阪市鶴見区茨田諸口町1118<br>〒538 TEL 06-911-6561        |
| サクラクレバス                | 千代田区神田三崎町3-1-16<br>〒101 TEL 03-263-4221                      | アート・コア・<br>版画芸術工房 | 京都市中京区寺町通り三条下ル一筋目東入ル<br>〒604 TEL 075-223-1760  |
| ヌーベルセンター               | 千代田区神田三崎町3-1-16<br>クレバスビル内ヌーベル<br>〒101 TEL 03-262-4221       | 酒井民雄              | 大垣市郭町3丁目 酒井書店<br>〒503                          |
| 大阪フォルム画廊               | 中央区銀座6-3-2 ギャラリーセンタービル5階<br>〒104 TEL 03-571-0833             | 菊田商店              | 文京区本駒込3-8-2<br>〒113 TEL 03-821-7131            |
| 日本版画保存会                | 川崎市多摩区登戸3460 吉沢英哲方<br>〒214 TEL 044-911-9041                  | 横田嘉雄              | 横浜市旭区金ガ谷781-13<br>〒241                         |
| 渡辺木版美術画舗               | 中央区銀座8-6-19<br>〒104 TEL 03-571-4684                          | 武蔵野美術学園           | 武蔵野市吉祥寺東町3-3-7<br>〒180 TEL 0422-22-8171        |
| 山田商会                   | 中央区八重州5-5<br>〒104 TEL 03-281-1667・8538                       | シロタ画廊             | 中央区銀座7-10-8 高橋ビル地下1階<br>〒104 TEL 03-572-7971~2 |
| レッドランタン版画舗             | 京都市東山区新門前通り仲之町236<br>〒605 TEL 075-561-6314                   | 養清堂画廊             | 中央区銀座5-5-15<br>〒104 TEL 03-571-2471            |
| 萩原市蔵商店                 | 千代田区神田紺屋町43<br>〒101 TEL 03-256-3591                          | 阿部出版版画芸術          | 目黒区上目黒4-30-12<br>〒153                          |
| 芸大画翠                   | 台東区上野公園12-8 東京芸術大学内<br>〒100 TEL 03-821-7056                  |                   | (順不同)  |
| 光村図書出版                 | 品川区上大崎2-19-9<br>〒141 TEL 03-493-2111                         |                   |  |
| ペンテル                   | 千代田区東神田2-1-6<br>〒101 TEL 03-866-6161                         |                   |  |
| マルチプルアートセンター<br>(乃村工芸) | 港区芝浦4-6-4 乃村工芸社<br>〒108 TEL 03-455-1171                      |                   |  |
| ギャラリーカプセル              | 中央区銀座8-16-10B401 堀江強志<br>〒104 TEL 03-541-4676                |                   |  |
| びげん(本店)                | 世田谷区尾山台3-33-5<br>〒158 TEL 03-702-2118                        |                   |  |
| 梶原商店                   | 渋谷区上原2-33-8<br>〒151 TEL 03-466-6117                          |                   |  |
| 文房堂                    | 千代田区神田神保町1-21<br>〒101 TEL 03-291-3441                        |                   |  |
| 日動画廊                   | 中央区銀座5-3-16<br>〒104 TEL 03-571-2553                          |                   |  |
| 画荘ヴィナス                 | 新宿区西新宿1-15-13 胖ビル内<br>〒160 TEL 03-346-2728                   |                   |  |
| 版画ギャラリー                | 京都市左京区熊野神社東入ル 京都ハンディ<br>クラフト・センター6F<br>〒606 TEL 075-761-0345 |                   |  |
| 画箋堂                    | 京都市下京区河原町五条上ル<br>〒600 TEL 075-791-6131                       |                   |  |

## ▶ 編集後記

会報5号は、カリキュラム分科会報告を中心に編集致しました。大学版画研究会発足以来、カリキュラムの内容を研究する事は大きな課題であったのですが、カリキュラム分科会に於いて委員の諸先生を中心に研究されて来た内容を、「版画教育を考える」、「カリキュラム実施の具体例」、「版画科カリキュラム案」、「卒業生の意見」としてまとめ掲載することに致しました。

カリキュラムの問題は、版画教育を推進する意味で大学版画研究会の重点課題として今後共研究を続けていかなければならない問題であると思います。

会報5号の為に原稿の執筆を依頼した先生方には、早急な依頼にも拘らず、内容の充実した原稿を送って戴いたのですが、上記の理由により今号では割愛させて頂きたいと思っております。

お送りいただいた原稿は会報6号に掲載する予定でおりますので御了承いただきたいと思います。

研究会、会報等に御意見がありましたら事務局までお寄せ下さい。

編集スタッフ一同

### 大学版画研究会 会報第5号 1979年7月

編集スタッフ 有地好登 / 浜西勝則 / 小沼隆一郎  
山野辺義雄 / 渡辺達正

発行 大学版画研究会

印刷 新日本造形株式会社・有限会社 西川

# 文房堂の版画材料

(木版・銅版・石版)

資料をご請求下さい

東京都千代田区神田神保町1-21 TEL (03) 291-3441 (代)



# サクラ版画絵具

## 株式会社 サクラクレパス

良い版材は良い地金

版画用・銅板・亜鉛板・リト用・ジंक板・アルミ板

## 有限会社 萩原市蔵商店

東京都千代田区神田紺屋町43番地  
電話 東京 (256) 3591番 (代表)

## 株式会社 乃村工藝社

マルチプル・アート・センター

東京都港区芝浦4丁目6番4号 / (03) 455-1171

石版画用ジंक研磨

## 版画用材料専門店 クラタ商店

大阪市鶴見区茨田諸口町1118  
TEL 06-911-6561

表現力と鑑賞力を養う教科書

# 光村図書

東京都品川区上大崎2-19-9 TEL 493-2111

## 株式会社 梶原商店

東京都渋谷区上原2丁目33番8号  
電話 (466) 6117 (代表)

現代版画

銀座ギャラリー

## カプセル

〒104 東京都中央区銀座8-16-10 B401  
TEL 541-4676

# 画材の専門店 ひびん

版画材料

●本店・世田谷区尾山台3-33-5 ●多摩美術大学売店・八王子市鎌水1723  
TEL 702-2118 TEL 76-6636

●八王子市三崎町2-13  
TEL 25-5221

中央区銀座5丁目3番16号

## 株式会社 日動画廊

電話 (571) 2553



ペンてる株式会社



ヌーベル アーチスツ油絵具  
ヌーベル エチュード油絵具  
ヌーベル 画用液  
ヌーベル ポスターカラー  
ヌーベル トローイングインキ  
ルフラン 油絵具  
ルフラン 画用液  
ラウニー 画筆

SAKURA COLOR PRODUCTS CORP.

東京都千代田区三崎町3-1-16 クレパスビル ヌーベルセンター  
〒101 TEL 東京 (03) 4221 (代) 東京  
大阪市東成区中道1丁目17-17 サクラビル ヌーベルセンター  
〒537 TEL 大阪 (06) 1241 (代) 大阪

# 画 翠

東京都台東区上野公園  
芸術大学内 ☎ (821) 7056

## 養清堂画廊



YOSEIDO GALLERY  
中央区銀座5-5-15 TEL. 571-2471

洋画・デザイン材料・額縁・石膏像

## 株式会社 画荘 ヴィナス

本店 〒460 名古屋市中区新栄町3-6  
TEL <052> 961-0591 (代)  
東京営業所 〒160 東京都新宿区西新宿1丁目15-13  
TEL <03> 346-2728 (胖ビル内)

版画科 1年修 石版・銅版・木版

## 武蔵野美術学園

武蔵野市吉祥寺東町3-3-7

# 大阪フォルム画廊

東京店 東京都中央区銀座6-3-2 ギャラリーセンタービル5階  
TEL 03-571-0833  
名古屋店 名古屋市中区新栄町1-1 明治生命ビル15階  
TEL 052-962-5811

版画専門メーカー



# 新日本造形(株)

東京本社 〒165  
東京都中野区新井1の42の8 TEL 03-389-1221  
大阪支社 〒540  
大阪市東区森ノ宮中央1の6の20 TEL 06-943-1141

## 日本版画保存会

川崎市多摩区登戸3460 吉沢英哲方  
〒214 TEL. 044-911-9041

## 光林図書

### 光林図書

東京 丸の内 丸の内線 丸の内駅 徒歩1分

## 大学版画研究会

事務局 女子美術大学版画研究室  
〒166 東京都杉並区和田1-49-8 TEL. 03(382)2271(代) 内線79番